

最上管内市町村教育委員会
山形県神室少年自然の家

社会教育・社会体育

実践事例

新庄城二の丸跡発掘調査

新庄市

1. はじめに

遺跡（埋蔵文化財）と聞くと、旧石器時代や縄文・弥生時代といったかなり古い時代をイメージする方が多いのではないかと。遺跡とは、過去の人間の活動の跡が残されている場所を意味する。具体的には、遺構や遺物が残されている場所を指し、住居跡や工房跡、水田跡、貝塚だけでなく、古代から近世までの都城跡なども含まれる。

この度、本市の公立保育所整備に伴い、新庄城二の丸跡の発掘調査が行われた。これは、保育所整備予定地が、新庄藩祖の戸沢政盛が寛永二年（1625）に築城した新庄城の二の丸跡、特に米倉が建っていた場所にあたり、前段で行われた試掘の結果を踏まえ、保育所整備の内容が、地下の遺跡に影響を及ぼす内容が高いことから、文化財保護法に基づき、正式な調査として行われたものである。



新庄城絵図（日本画家：尾形芦香画／1858年～1946年）

2. 事業内容

(1) 調査要項

- ①調査期間 令和5年5月15日（月）～11月14日（火）
- ②所在地 新庄市堀端地内（新庄ふるさと歴史センター脇）
- ③調査機関 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
- ④調査面積 1,800㎡
- ⑤検出遺構 建物跡、溝跡、土坑、柱穴、ピット
- ⑥出土遺物 陶磁器、瓦、金属製品、石製品



調査区概要図

(2) 調査の概要と経過

調査は、重機による表土の掘削から始まり、作業員による手掘りに移り、まずは調査区壁面の整形を行った。公園や学校に由来する盛土は固く、大変な作業となった。

調査は、出土する遺物や遺構の検出状況を見ながら、掘削する深さに応じて第1面から3面に分けて行われた。

第1面は、戊辰戦争の際の火災に由来すると考えられる焼土や炭化物が混じった層が広範囲に認められた。主に明治以降の遺構となり、この層からは炭化米が多く出土したことから、江戸時代にこの場所にあった米蔵に由来するものと考えられる。

戊辰戦争後、二の丸跡は、盛土のうえ、新庄中学校、新庄北高等学校が建てられていた。高校移転後は都市公園の一部となっている。

第2面は、二の丸に関する遺構と戊辰戦争後に瓦など



調査の様子（炭化した木材等の取り上げ）

を廃棄した遺構などが認められた。焼土遺構は戊辰戦争の際の火災によるもので、炭化材や炭化米を含んでいる。

瓦が廃棄された土坑や廃棄地点が3カ所確認されたほか、建物の礎石や柱穴が検出され、礎石は大型で方形の割石や円形・楕円形状の自然石が使われている。大型の礎石は直径が50cm以上で、火災による被熱の痕が残っている。後世の混乱で失われた礎石もあり、建物の規模は不明だが、江戸時代の米蔵の礎石に該当するものと考えられる。

第3面は、新庄城の築城後に二の丸が整備されていった面と考えられる。調査区の西側では落ち込む地形が確認され、築城当初は湿地的な地形であった場所を大量の瓦と土砂を入れて整地を行い、堅固な平場を造成していったと考えられる。調査区の東側では、南北に延びる溝状の遺構や土坑などが確認された。江戸時代前半の時期と考えられるが、これらの遺構も二の丸の整備に伴い埋め立てられ整地されたと推測される。

遺物としては、江戸時代の瓦や陶磁器、金属製品、石製品が出土した。瓦は黒色の丸瓦と平瓦が主であるが、鯪瓦と考えられる破片も出土した。

陶磁器については、九州の伊万里焼や唐津焼が見られ、17世紀代になる古手のものが多いようである。中国産の青花も少量だが見られた。

その他、江戸時代の貨幣（一分金・寛永通宝）や鉄製品・銅製品なども出土している。

3. 遺跡調査の目的・意義

発掘調査の目的は大きく分けて2つある。

一つは、遺跡のある地域の歴史を知り、現代に伝え、今の私たちの生活に役立てることである。

もう一つは、道路や建物を造るために遺跡が壊れてしまう前に、遺跡の内容を記録するための調査である。

遺跡は地域の大切な宝であるが、私たちの生活も大切である。このため、どうしても遺跡がある場所に道路や建物を造らなければならないこともある。このような場合に、この度のような遺跡の内容を記録するために調査が行われる。

今後、発掘調査で出土した遺物は、調査主体である公益財団法人山形県埋蔵文化財センターにて、洗浄・整理などの作業を行い、その後、報告書作成に生かされる。

本市では、今後、整理が済んだ遺物から預かり、新庄ふるさと歴史センターでの企画展等で活用していきたいと考えている。



北側調査区で確認された大きな礎石



鯪瓦（鱗のような文様が見られる）



歴史小説家：今村翔吾氏との発掘調査（新庄中学校）



現地説明会の様子（11/3、金・祝）
市内外から80名を超える参加者が参加

新庄キャッスルサイドドリレーマラソン大会

新庄市

1 はじめに

新庄市では令和4年度までスポーツ振興と交流人口の拡大による地域振興を目的として「新庄いものこハーフマラソン大会」を開催していた。

今年度からは「つながたすき つながる新庄」をテーマに2025年に新庄開府400年を迎える新庄城址（最上公園）付近を会場とし、全国でも珍しい市街地コースでの「リレーマラソン」という新たな形で開催した。



走る距離を1周1kmとする「リレーマラソン」形式での開催により、誰もが気軽に参加できるスポーツイベントを目指した。

また同日に食のイベント「新庄味覚まつり」と「新庄もがみベース Vol.2」を開催することで、各イベント参加者の満足度を高めるものとした。

2 事業内容

第1回新庄キャッスルサイドドリレーマラソン大会

- ・開催日：令和5年10月14日（土）
- ・場 所：新庄城址（最上公園）周辺 特設コース
- ・距 離：1周1kmのコースを21周
- ・チーム人数：一般の部 2～8人
小中学生の部 4～10人
- ・参加料：一般の部
2～5人チーム 3,500円/人
6～8人チーム 3,000円/人
小中学生の部 1,500円/人
ソロの部 4,000円
- ・制限時間：2時間30分
- ・参加者特典として食のイベントで利用可能なクーポンを配布



〈参加者実績〉

No.	種目名	参加人数	出走数		完走数		完走率
1	リレーマラソン 一般の部	177	32	39	25	30	78.1%
2	リレーマラソン 小中学生の部	52	7		5		71.4%
3	ソロ 男子の部	11	11	12	10	11	90.9%
4	ソロ 女子の部	1	1		1		100.0%
合計		241	51		41		80.4%

※ゲストランナーは含まず。

完走数÷出走数

3 成果（○）と課題（●）

- 当日は天候にも恵まれ、参加者から楽しかったといった声が多く聞かれた。
- 観客からの声援がある中で走るのが初めてで、走るのが楽しかったから、もう一周多く走りたいという方もいた。
- 同日開催された「新庄もがみベース Vol.2」を会場内（文化会館駐車場）で行ったため、走り終えた参加者だけでなく応援に来た方も楽しめるイベントとなった。
- 参加者の年齢が、最年少は6歳から最高齢が66歳までと幅広い年代からの参加があり、イベントを通してスポーツの振興、体力維持・向上、健康増進が図られた。
- 家族や職場の仲間などと参加することで、イベントを通じて懇親を深めることに寄与した。
- スタートとリレーゾーン位置の関係で、周回の認識が徹底されておらず、周回不足となった参加者の割合が高くなってしまった。
- 今回初めて行う大会で、市民からの認知度も低かったため、予定していた参加者、特に小中学生の部の参加者が少なかった。

【大会時の様子】



4 終わりに

今回リレーマラソン形式での大会を開催し、多くの方に参加いただいたが、参加された方の笑顔の多さがとても印象的だった。一人で走ることが楽しい人もいると思うが、チームで参加することで、チームの仲間と一緒に一つのことを成し遂げる達成感はリレーマラソンならではのと思う。

第1回目の大会ということもあり、ルール理解等で不十分な点もあったが、参加者の楽しそうな表情を見る限り、イベントとしては成功だったと感じている。

次回は広報周知の仕方を見直し、さらに多くの方に参加していただき、スポーツ振興を図っていききたいと思う。